

平成26年度 大分県学力定着状況調査結果について（小5・中2）

佐伯市では、市内の小学校5年生、中学校2年生を対象とし、平成26年4月15日（火）に「大分県学力定着状況調査」を実施しました。

【実施教科】

小5・・・国語、算数、理科の3教科

中2・・・国語、数学、理科、英語の4教科

【実施内容】

- ・国語、算数・数学、理科、英語について「知識」と「活用」をそれぞれの教科で問う
- ・学びに向かう力や生活習慣等に関する学習意識調査

【用語解説】

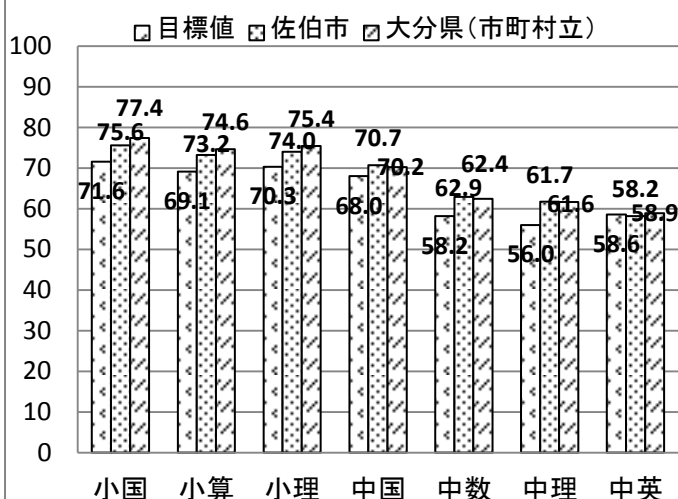
※正答率：児童生徒が正答した問題数の割合（％） … 平均値を意味する

※達成率：目標値を上回った児童生徒数の割合（％）

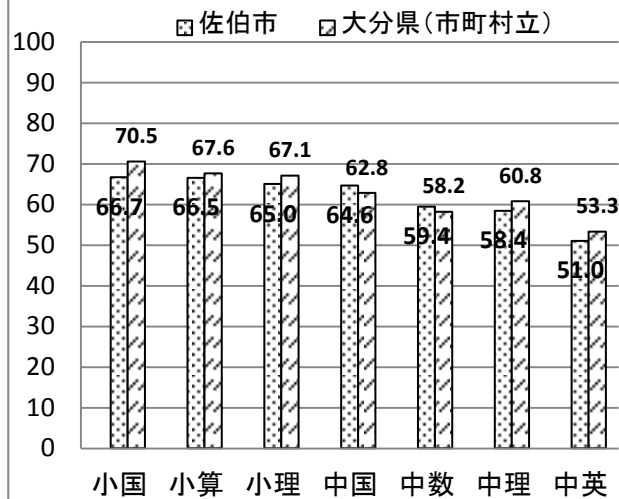
※目標値：児童生徒に到達してほしい基準。目標とする点数の意味合い。

教科		小学校5年生			中学校2年生			
		小国	小算	小理	中国	中数	中理	中英
正答率	目標値	71.6	69.1	70.3	68.0	58.2	56.0	58.6
	佐伯市	75.6	73.2	74.0	70.7	62.9	61.7	58.2
	大分県（市町村立）	77.4	74.6	75.4	70.2	62.4	61.6	58.9
達成率	佐伯市	66.7	66.5	65.0	64.6	59.4	58.4	51.0
	大分県（市町村立）	70.5	67.6	67.1	62.8	58.2	60.8	53.3

H26年度 平均正答率の比較



H26年度 達成率の比較

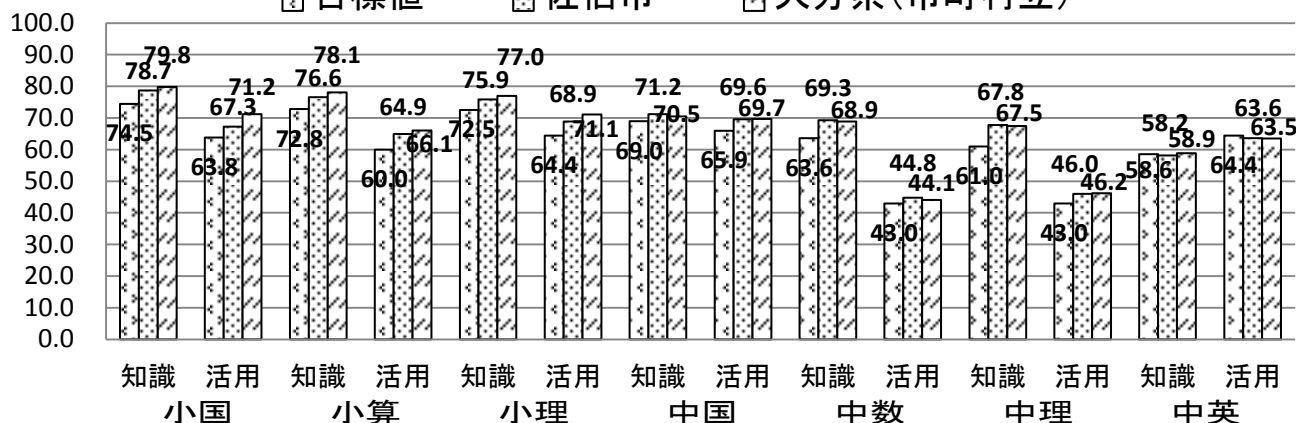


- 教科合計の正答率を目標値と比べると、中学校英語以外の全ての教科において上回っています。特に中学校理科で5.7ポイント、数学で4.7ポイント上回っています。小学校では国語で4.0ポイント、算数で4.1ポイント、理科で3.7ポイント上回りました。
- 一方、教科合計の正答率を県平均と比べると、中学校では英語以外の教科で0.1～0.5ポイント上回るものの、小学校では全ての教科で1.4～1.8ポイント下回りました。小・中学校ともに県平均とほぼ同等と見られます。
- 教科合計の達成率を県と比べると、小学校では、県を約1.1～3.8ポイント下回り、中学校では国語で1.2ポイント、数学で1.8ポイント上回り、理科で2.4ポイント、英語で2.3ポイント下回っています。

教科		小学校5年生						中学校2年生							
		小国		小算		小理		中国		中数		中理		中英	
		知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
正答率	目標値	74.5	63.8	72.8	60.0	72.5	64.4	69.0	65.9	63.6	43.0	61.0	43.0	58.6	64.4
	佐伯市	78.7	67.3	76.6	64.9	75.9	68.9	71.2	69.6	69.3	44.8	67.8	46.0	58.2	63.6
	大分県(市町村立)	79.8	71.2	78.1	66.1	77.0	71.1	70.5	69.7	68.9	44.1	67.5	46.2	58.9	63.5
		知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用	知識	活用
達成率	佐伯市	68.6	58.7	68.5	63.6	64.8	63.5	63.4	66.3	65.8	46.0	66.4	48.5	51.0	51.9
	大分県(市町村立)	70.2	66.7	71.2	64.4	66.0	67.7	60.6	65.4	64.2	45.8	67.0	50.4	53.3	51.5

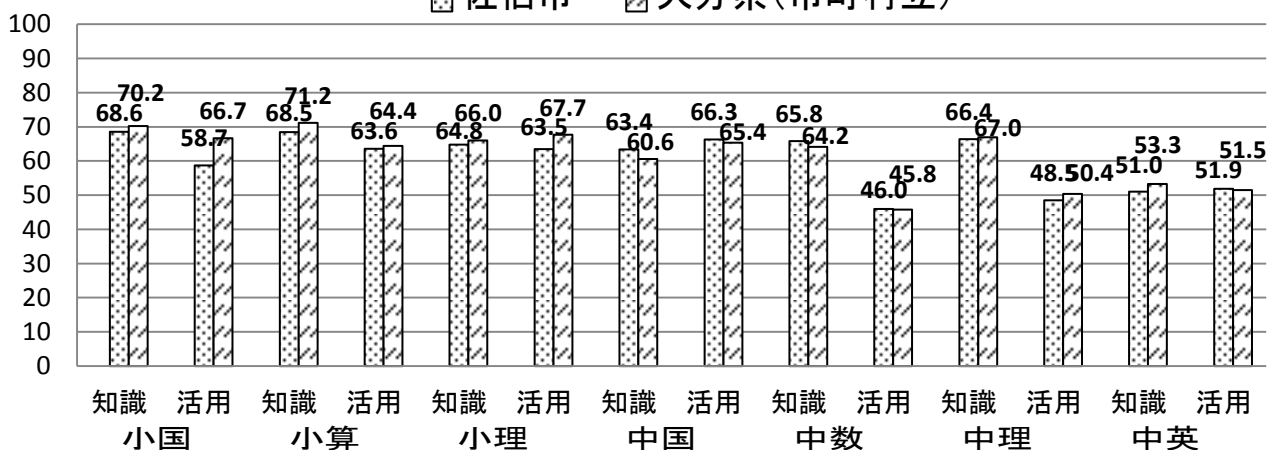
H26年度 問題区分別平均正答率の比較

□ 目標値 □ 佐伯市 □ 大分県(市町村立)



H26年度 問題区分別達成率の比較

□ 佐伯市 □ 大分県(市町村立)



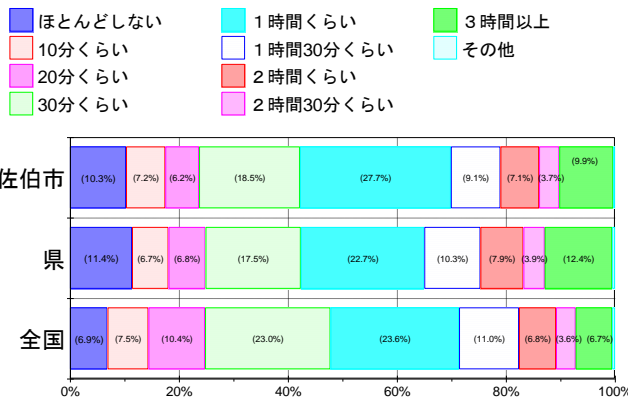
○「知識」と「活用」の問題区分別に正答率を目標値と比べると、小学校では3教科とも「知識」「活用」すべてで目標値を上回っています。しかし、いずれも県との比較では1.1～3.9ポイント下回っています。中学校では英語以外で「知識」「活用」とも目標値を上回っています。県との比較では、英語の「知識」以外で県の値を上回るか、ほぼ同等の結果になっています。

生活実態について

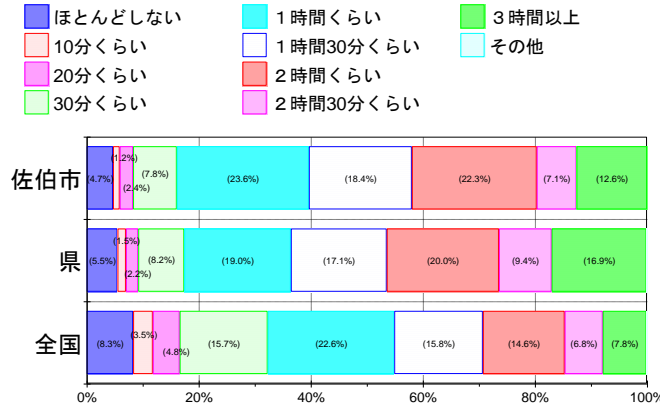
【大分県 学力定着状況調査児童生徒質問紙（小5・中2）の結果】より（一部抜粋）

Q あなたは、この一か月、学校の授業時間以外に、一日どれくらい勉強しましたか。
 （学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に見てもらっている時間もいれます。）
 （学校の授業がある月曜日から金曜日について）

小学校5年生

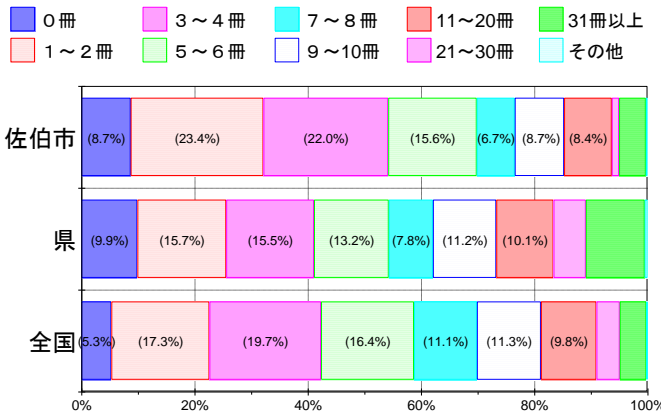


中学校2年生

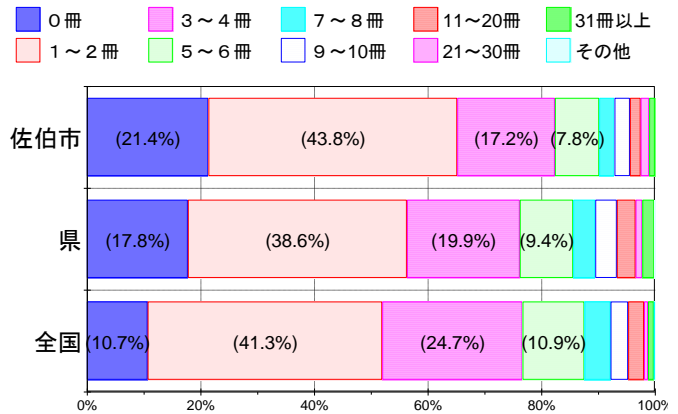


Q あなたは、この一か月の間に、本を何冊くらい読みましたか。
 （教科書や参考書、マンガはのぞきます）

小学校5年生

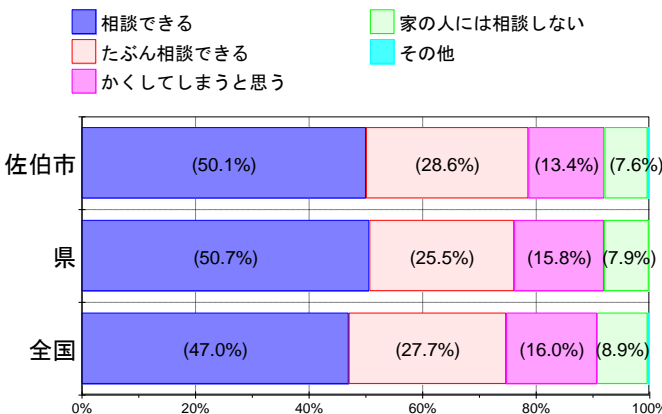


中学校2年生

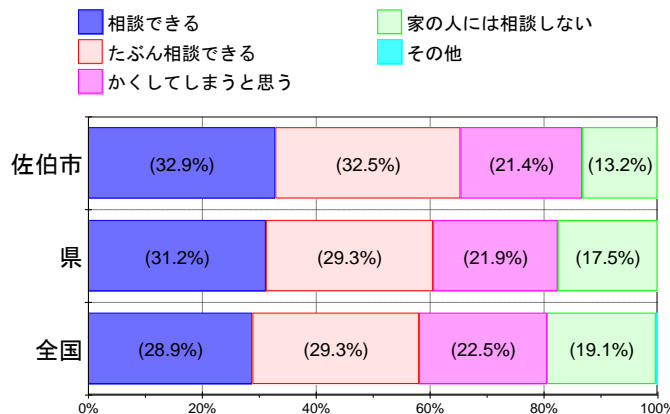


Q 本当につらい出来事があったとき、家の人の誰かに相談できますか。

小学校5年生



中学校2年生



○小学校5年生の平日の家庭学習時間について、1時間以上している児童の割合は6割に少し届きませんが、県・全国平均を上回っています。しかし、平成25年度の調査では6割を少し超えていたため、昨年より若干減少する結果となりました。

中学校2年生については、1時間以上している生徒は8割を超えており、全国平均を大きく上回っています。しかし、30分以下の生徒が16.1%となっており、昨年度の14.4%と比較すると少し増加しています。また、ほとんどしないと答えた生徒が、昨年度2.2%だったものが4.7%と倍増しています。加えて、2時間以上している生徒の割合は、全国平均より上回るものの、県平均よりも少ないことがわかります。

これらのことより、学習内容の定着や習熟に向けた家庭等での学習時間をさらに充実させる必要があります。学年に応じた、授業と宿題をつないだ学習時間の意図的・計画的な拡充のための取組を進める必要があると考えられます。

○一ヶ月間の読書については、小学校5年生で5冊以上読む児童は5割に満たず、全国や県に比べ大きく下回っています。また、中学校2年生では1～2冊以下の生徒が6割以上を占めています。特に「0冊」の生徒が21.4%と全国の値の2倍となっていることや、昨年度より数値が少し増えていることから、読書離れが心配されます。

文字を早く読む、文意を読み取る、他の人の考えを知る、想像力を伸ばす等、読書にはさまざまな効果が期待されます。家庭と連携して読書習慣をつけることや、各教科等で学校図書館を活用した、読書に親しむ活動を充実させる必要があると思われます。

○つらい出来事を家の人に話すことができるかについては、小学校5年生では、肯定的な回答の割合が8割弱と、全国の割合を少し上回りました。また、中学校2年生についても、肯定的な回答の割合が6割を超え、全国の割合を少し上回っており、家族との関係は良好であると思われます。